

テーマ

鳥取オリジナル品種‘智頭リンドウ’の開発と育種効率化に関する研究

研究者

鳥取大学農学部・講師 竹村 圭弘

概要

智頭町では、標高差を利用しての長期的なリンドウの出荷が行われてきたが、生産者の減少により地域固有種の絶滅も危惧されている。そこで本課題では、地域固有種のリンドウの掛け合わせによる新品种の開発を行うとともに、育種の効率化についての研究を行う。これにより、新たに開発される品種のブランド化が可能となり、生産量の拡大と観光資源への応用化にも大きく寄与するものと期待される。

研究内容



リンドウの育種の問題点

- ・青花は仏花としてのイメージが強く、**利用用途**を狭くしている。
- ・顕著な自殖弱勢を示すため、育種の**効率化**が重要視される。

地域固有種のピンク花や白花を育種に活用

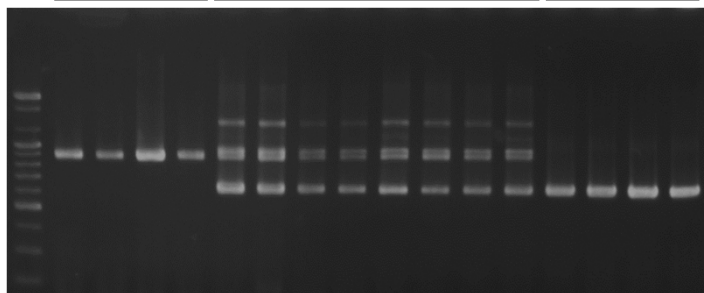


DNAマーカーによる開花前の花色判定

白色

薄紫色

濃紫色



新たに開発される品種のブランド化



引用：恋山形駅HP



引用：智頭急行HP

生産量の拡大と観光資源への応用化 → **経済の活性化**

応用分野

品種育成・ブランド化・花卉生産業など。

連絡先

鳥取大学農学部・講師 竹村 圭弘

連絡先 (y-takemura@muses.tottori-u.ac.jp、0857-31-6749)